



石間城峯神社（秩父市）の狼像

ありがとう ぐんっと 20年!

かわはく No.59

CONTENTS

開催案内：平成29年度特別展 神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～…2

スロープ展示のご案内 特別展サテライト展示「狼の昔話」……………3

開催報告 平成28年度春期企画展「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」…4

開催報告 5月企画展「東京藝術大学学生による“調べる「荒川・隅田川水系」作品展」…5

かわはく「こども交流員」～お仕事体験記～ ……………6

学芸員コラム 卵を守るムシ「わっくさ」……………7

秋期企画展のご案内「かわはく・荒川20年」……………7



開催案内 平成29年度特別展

神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～

開催期間：平成29年7月15日(土)～9月3日(日)

会場：埼玉県立川の博物館 本館 第二展示室・第一展示室 スロープ展示

7月15日(土)より、平成29年度特別展「神になったオオカミ～秩父山地のお犬様信仰～」を開催します。

日本国内では明治末期に絶滅したとされるオオカミですが、埼玉の母なる川、荒川上流に広がる秩父山地もまた、かつてオオカミの生息地でした。

この秩父山地一帯には「お犬様」と称してオオカミを祀っている神社が多数あり、全国的にも特異な状況を示しています。江戸時代に始まったとされるお犬様信仰は、関東甲信地方へ広がりを見せ、その信仰は現在もなお続いています。そのためこの地域では、現在も毛皮や頭骨を保存している家が何軒もあり、オオカミにまつわる伝承や伝説も各地で聞くことができます。

本特別展では、動物としてのオオカミとともに、神として崇められたオオカミを取り上げ、秩父山地における人と動物との関わりに触れてみたいと考えています。実際の生態から見えてくるオオカミ像や、多くの人々が頭に思い浮かべる、物語に登場するようなオオカミ像、そして神として崇められるようになったオオカミ像。

本特別展が、オオカミの実像を知っていただくきっかけに、そしてオオカミの魅力の再発見につながっていただければ幸いです。

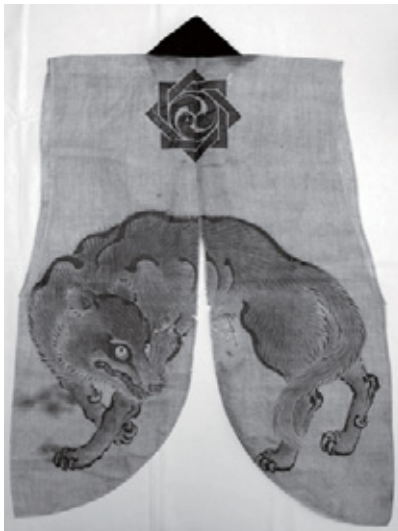
※ここで言うオオカミとはニホンオオカミを指し、また秩父山地とは埼玉県境を越えて群馬・長野・山梨・東京の各都県に広がる山地を指しています。



三峰神社拝殿（秩父市三峰）



猪狩神社の狼像（秩父市贛川）



狼絵陣羽織（山梨県立歴史博物館蔵）



ニホンオオカミ頭骨（個人蔵）



【特別展の主なみどころ】

- ・ニホンオオカミの剥製の展示
会期中に、日本国内で3体のみ確認されているニホンオオカミの剥製のうち、1体を展示します（和歌山大学教育学部蔵）。
<展示期間>平成29年7月22日(土)～8月20日(日)
- ・オオカミを祀る神社の紹介
秩父山地一帯にはオオカミを祀る神社が集中し（三峯神社など計21社）、全国的にも珍しい状況にあります。本特別展では各社にあるオオカミの石像や木像を取材し、展示会場には頒布している護符を全て展示します。
- ・狼絵の展示
幕末から明治にかけて活躍した日本画家、河鍋曉齋なべきょうさいや江戸時代後期から明治にかけて活躍した秩父出身の彫刻家、森玄黄齋もりげんこうさいなどが描いた狼絵を展示します。
- ・映像コーナー
三峯神社と寶登山神社に伝わる「お炊き上げ」（オオカミに御飯を供える神事）の様子や、多摩動物公園で展示されているタイリクオオカミ

の生態を取材した時に撮影した映像を編集し上映します。

- ・西洋と日本の狼の昔話の紹介
狼にまつわる西洋と日本の昔話を、山田だり氏（イラストレーター）の挿絵とともに紹介します。

【イベント情報】

- ①ウッドクラフト「オオカミを作ろう」
講師：西岡忠司氏（深谷市 工房西岡）
実施日：7月29日（土）13:00～16:00
定員：20名（高校生以上）
費用：2,000円（材料費）
 - ②講演会「ニホンオオカミと三峯」
講師：山口民弥氏
（秩父宮記念三峰山博物館名誉館長）
実施日：8月6日（日）13:30～15:00
定員：80名
費用：無料
- ※その他の関連イベントもございます。イベントの詳細は当館ホームページをご覧ください。
（研究交流部 羽田武朗）

スロープ展示のご案内

特別展
サテライト展示

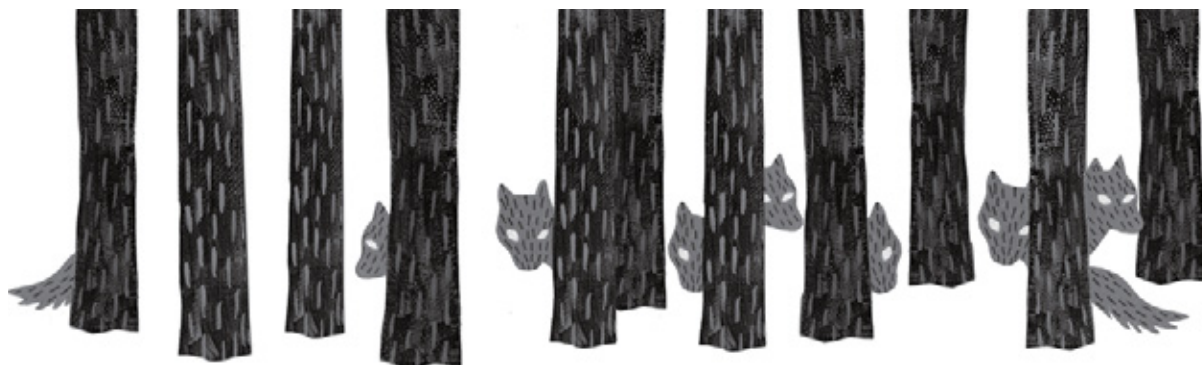
おおかみ

むかし ばなし

狼の昔話

開催期間：平成29年6月30日(火)～9月3日(日)

会場：第一展示室 スロープ展示



特別展サテライト展示として、狼にまつわる西洋と日本の昔話を紹介します。また埼玉県内に伝わるオオカミ伝説に関しては、イラストレーターとして活躍されている山田だり氏に制作いただいた挿絵を使用して紹介します。
(イラスト・展示タイトル / 山田 だり)



開催報告：平成28年度春期企画展

「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」

会期：2017年2月18日(土)～5月7日(日)

細密でありながら生き生きとした作品を生み出すサイエンスアート。今回は荒川流域の生きものを中心に8名の作家の作品を展示しました。写真で見ると絵で見るとでは、同じ生きものでも印象が異なります。絵などの作品を見て得る感動から生きものへの関心を新たにしてもらえれば…、そんな気持ちで企画した展示でした。

アンケート結果の一部を紹介します。／どの作品も精密さが楽しくて、ひきつけられました。実際に会ったことのある動植物、鳥の作品は実物を見る様な気持ちで見入っていました。(15～19歳)／ここまで自然を描写した絵は初めてみた。感動しました。(中学生)／ペーパークラフトの虫で、まつりシリーズがこまかいところまでできていてすごいな、と思いました。(小学生)／すべてすばらしい！この展示の為に3時間かけて来た甲斐がありました!!(40～64歳)／ときに写真以上の力を絵が持っていることを思い知らされました。すごいです。(40～64歳)／サイエンスアートの細かい表現、毛の一本一本へのこだわりなど、作品の思い、動物たちのいきいきとした生態がよく分かり、とても面白かった。(15～19歳)／絵だけでなく、まさか割りばしアートまでであるとは思わず、感激した!!(20～39歳)など。

アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。小学生から大人まで、じっくり見ていただいたようで嬉しい限りです。

関連イベントも行いました。

3月4日 絵画教室①

木目を生かして木版に直接絵を描く「木彩画」で魚や鳥の絵を出展していただいた佐藤忠雄氏を講師に迎え、イワナの絵を描く教室を行いました。下絵は準備いただいて、ヤマメの特徴的な模様ことや、水彩絵の具の混ぜ方・色ののせかたなど、丁寧に教えていただきながら色をつけていきました。

3月18日 絵画教室②

カワセミやタンチョウの絵を出展していただいた狼林氏を講師に迎え、キジの絵を描きました。下絵は準備していただいて、まずは下地の色を色の濃淡に注意しながら全体をぬり、そこにさらに

色をのせていく、という描き方を教わりました。



絵画教室はいつでも午前・午後の回がありましたが、子供から大人まで、絵が好き！という思いが伝わってくる方が多くいらっしゃいました。同じ下絵ですが、仕上がりは個性が出て、楽しい教室となりました。

4月22日 ペーパークラフトで虫をつくろう

紙で様々な昆虫を生み出す紙技工場の齊藤卓治氏を講師に迎え、クラフトのキットを使ってテントウムシを作りました。テントウムシだけではなく、葉っぱや花も作り方を教えていただき、思い思いの作品が出来上がりました。最後に齊藤先生にお願いして、1枚の紙を切り抜くところから5分ほどでカマキリを作っていただくと、参加者から感嘆の声が上がりました。



最後に、展示に多大なご協力いただいた狼林先生はじめ、快く作品をご提供いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

(研究交流部 森圭子)



開催報告：5月企画展

「東京藝術大学学生による “調べる『荒川・隅田川水系』作品展”

会期：2017年5月27日(土)～6月18日(日)

昨年の6月頃、東京藝術大学デザイン科の藤崎圭一郎教授から連絡があり、荒川・隅田川水系で調査を行って作品制作につなげるという課題を考えており、ついては調べるきっかけづくりに川の博物館を見学し、話を聞きたい、というご相談を受けました。これまでにないような内容のご相談で少し戸惑いましたが、是非お越しく下さい、とお返事しました。そして7月上旬にデザイン科1年生の学生さん(現・2年生)と先生がかわはくにいらっしゃいました。かわはくの概要を説明し、当館特有の荒川大模型を使った荒川の解説や、先生が興味を持たれていた土壌標本の説明を行いました。自由見学の時間には、荒川の源流がある甲武信岳に登ってみたい、という学生さんや、生きものについて話を聞きたいという学生さんが生きもの担当の学芸員に熱心に質問する姿も見られましたし、後日かわはくに改めて質問に来られた方もいました。ただ、私たちにはそもそも「荒川を調べてそれを作品にする」という発想がなく、この課題でどのような作品ができるのか、なかなか想像できませでした。

そして10月上旬、この課題が完成し、学内での公開講評会に参加しませんか、という連絡をいただき、わくわくした気持ちで講評会に参加しました。もちろん荒川の絵を描く、という単純なものではないだろうことはわかっていましたが、それらの作品は、荒川源流をアクアリウムとして再現したものや、未来から荒川流域に存在した遺物を見るという設定の作品など、私の想像を越えるものばかりでした。

荒川・隅田川水系を、凡人(?)にはない視点で見てそれを作品としたものなのでかわはくの企画展として展示したい!との思いを強くして、これは是非、と先生方と相談させていただきました。そして検討の結果、かわはくの5月企画展示として作品を展示させていただくことになりました。

残念ながら、作品の性質などによって展示できないものもあり、先生方にも検討していただいて、優れた作品21点を企画展として展示しました。



会場の様子

アンケート結果の一部を紹介します。／川を見る眼が私達とは異なり、発想が奇想天外。素晴らしい展示で興味が湧きました。(65歳以上)／モノを考え作る作業は私も大好きです。また何か新しいものを作りたい気持ちになりました。(20～39歳)／いろんな作品があつて、とても楽しかったです! 今度は家族でいって、弟にもみせてあげたいです!(小学生)など。

そして今年もデザイン科1年生45名が6月末にかわはくを訪れ、これから作品づくりが始まるとのこと。かわはくで展示できるかどうかはまだわかりませんが、どのような作品が生まれるのか、私たちも楽しみにしています。今回のような展示でモノの見方やものづくり、芸術作品をきっかけに荒川への興味を広げていただければ嬉しい限りです。

(研究交流部 森圭子)



かわはく 「こども交流員」～お仕事体験記～

今年度、20周年記念イベントとして、「こども交流員」お仕事体験を、毎月1回開催しています。4歳から12歳までのお子さま対象で、各回10名の定員です。2チームに分かれ、年齢に応じた体験を行っています。これまで3回開催し、低学年向けカジカチームでは、館内放送とワークショップイベント「うごくおもちゃであそぼう」を行い、中・高学年向けイワナチームでは、アドベンチャーシアターのナビゲーター、ミニクイズ大会、館内放送を行いました。

最初は緊張していたお子さま達が、発声や挨拶の練習、楽しい自己紹介ゲームを通し、緊張がほぐれてくると、笑顔になり、のびのびと活動を始めました。

ワークショップイベントの準備は、動くおもちゃ作りからです。気に入ったおもちゃを選び、それぞれ自由に工作します。好奇心いっぱいのキラキラした表情で作る姿が印象的でした。いよいよお客様の前でおもちゃの紹介をする時は、緊張しながらも、個性を発揮し、素敵な発表が出来ました。楽しい事を本当に楽しそうに紹介する姿に、子ども達から大切な事を教えられました。また実際に、お客様におもちゃを作ってもらう場面では「ここをとめて」「こうやってはるんだよ」と一生懸命に教えていました。初めての接客に戸惑いながらも手取り足取り教えようと頑張る姿が頼もしかったです。

アドベンチャーシアターではナビゲーターとして、チケット切り、シートベルトの確認、アナウンスやスタートの操作をします。お客様の前に立ち、マイクを手に行うアナウンスはドキドキですが、子ども達は一生懸命に、練習の成果をみせてくれました。初めての操作卓もワクワクです。クイズ大会では自分の作った問題をお客様に出題し、参加賞のプレゼントも配りました。小さなお子さまにやさしく接し、また、元気に挨拶も出来ました。

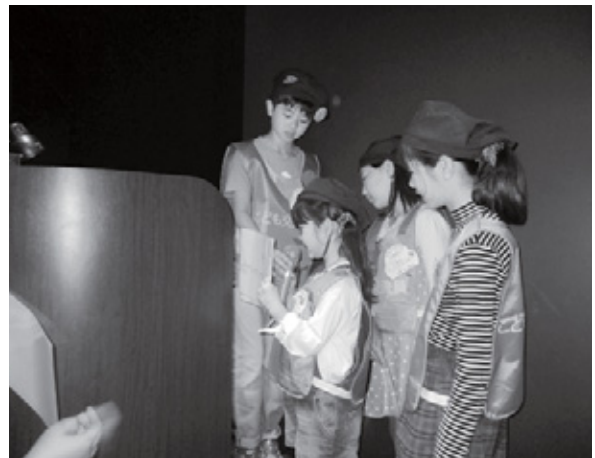
何よりも、子ども達が自分で考え、工夫し、積極的に活動する姿、初めて会ったお友達と協力する姿、小さな子を気遣う優しさなど、ステキな姿が沢山見られました。また最後に、館長から認定証を受け取る時のキリリとした表情、満面の笑顔のうれしそうな姿、満足感、達成感の自信に満ちた姿には、見ているこちらも喜びに包まれます。

活動中の楽しそうな笑い声、ひょうきんな姿、

はじけるような笑顔、やる時はしっかり頑張る姿。子ども達の力で素敵なお仕事体験となりました。

この後も毎月1回行います。かわはくが好きなお友達、興味のあるお友達は、ぜひ応募して下さい。缶バッジや名札、お仕事ノートなどのステキなプレゼントもあります。一緒に楽しいお仕事体験をしましょう。お待ちしております。

(交流員 反町愛美)





◆学芸員コラム◆ 「卵を守るムシ「わっくさ」」

「わっくさ」というムシをごぞんじでしょうか？私が生まれ育った寄居町では「カメムシ」のことを、このように呼んでいました（私の住んでいる地域だけかもしれませんが）。秋になると、ムシたちが冬ごしのために人家の戸袋などにやってきます。雨戸の開け閉めなどで、うっかりとつぶしてしまうと、例のカメムシのくさいにおいがぷーんと漂ってきてしまい、何とも言えない残念な気分になったものでした。

ところがそんなくさいカメムシですが、卵が孵化するまで、親が外敵から守る種類がいるのです。背中にハートを背負ったそのカメムシは、「エサキモンキツノカメムシ」と言います。体長、約10-14mmのその虫は6月ごろミズキやケンポナシなどの葉に70-80個の卵を産み付け、孵化するまで外敵から卵を守ります。撮影のために近づいたレンズにさえハネをはばたかせて威嚇します。そんな姿を見るとカメムシもなかなか侮れないなあ、と感心してしまいます。

カメムシはくさいのも特徴ですが、実はあのアメンボやセミもカメムシの仲間です。くさいだけではなく多様な変化をとげ、さまざまな環境に適応したムシなのです。

「わっくさ」という方言も響きがいいと思います。カメムシに気付かず、さわってしまった人の気持ちが見事に現れています。だって「わっ！クサッ！」ですものね。

（研究交流部 石井克彦）



秋期企画展のご案内

「かわはく・荒川 20年」

開催期間：平成29年9月30日～11月26日

川の博物館は開館20周年を迎え、8月1日の開館記念行事など各種行事と併せ、平成29年度秋期企画展として「かわはく・荒川 20年」を開催する運びとなりました。

本企画展では開館当時を振り返るとともに、荒川流域の大きな出来事や話題、開館当初と現在の世相の比較などを中心に展開し、荒川流域や埼玉県20年間をトピックする展示を企画しました。

様々な記念イベントで大いに賑わった開館当初は写真パネルで振り返ります。また、現在は補修を要する状態ではありますが、開館以来当館の目玉である「荒川大模型173」には、20年の変遷について、スポット解説プレートを加えます。そして明るい話題としては、多摩川や荒川下流域に出没し「タマちゃん」として全国的にフューチャーされた、アゴヒゲアザラシを剥製標本で展示します。

この20年で運用を開始した荒川水系の大型ダムである浦山ダム、滝沢ダムや、近年発生した大雨や台風など、流域で増加している外来生物など、

荒川流域や埼玉県の様々なトピックを紹介する予定です。

また、この20年を振り返って荒川や埼玉県をテーマに来館者聞き取り調査を実施しました。変化したことや印象に残ったことなど、埼玉県民・荒川流域の人々それぞれの思いを紹介します。

（研究交流部 藤田宏之）



開館当初のイベントの様子（平成9年8月）

8月

6/23/金～9/3/日
スロープ展「特別展サテライト展示・狼の昔話」

7/15/土～9/3/日
特別展「神になったオオカミ
～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～」

1/火 開館20周年感謝デー
内容：8月1日にかわはくは開館20周年を迎えます。当日12時から記念セレモニーを開催します。楽しいイベントも行います。

1/火 かわはくであそぼう・まなぼう
かわはく開館・水の日記念「利き水体験」
場所：本館前
時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00
費用：無料
内容：利き水などをしながら、水の性質と大切さを学びます。

6/日 特別展開連イベント 講演会「ニホンオオカミと三峰」
場所：ふれあいホール
費用：無料 定員：80名（申込順）☎
内容：元三峰山博物館長山口民弥氏に、三峯神社とオオカミについて語っていただきます。

17/木 かわはく体験教室「伝統漁法体験」
場所：かわせみ河原
時間：①10：00～12：00 ②13：30～15：30
集合・解散：かわせみ河原
費用：500円（保険料等） 定員：各回20名（申込順）☎
内容：漁協の方を講師に招いて、荒川で行われていた昔ながらの漁法（投網など）を体験します。

20/日 かわはく研究室～川・自然・歴史～
「セミのぬけがらをよく見てみよう」
場所：荒川情報局
時間：13：30～15：30 定員：随時2組程度
内容：かわはく内にあるセミのぬけがらを観察します。

9月

9/6/水～1/14/日
スロープ展「カスリーン台風襲来70年目の教訓
～水害の記憶と未来への備え～（仮）」

9/30/土～11/26/日
企画展「かわはく・荒川20年」

17/日 かわはく研究室～川・自然・歴史～「田んぼの小さな生きもの」
場所：荒川情報局
時間：13：30～15：30
定員：随時2組程度
内容：田んぼをささえる小さな生きものを顕微鏡で観察しましょう。

23/土祝 かわはく体験教室「砂金採り教室」
場所：講座室・かわせみ河原
時間：10：00～12：00
費用：100円（保険料）
定員：20名（申込順）☎
内容：かつては砂金が多く取れた荒川で、砂金の採集にチャレンジします。運がよければ砂金が取れるかもしれません。

10月

1/日 かわはくであそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」
場所：ファミリー広場 時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：お月見にまつわるクイズラリーをします。

7/土 荒川ゼミナールⅡ いろんな荒川を見に行こう
「歩いて学ぶ大宮台地のドロツケ」（兼かわはく体験教室）
時間：10：00～16：00（予定）
集合：埼玉県自然観察センター 場所：北本市内
費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎
内容：かつて行われていた荒川の沖積土を肥沃度の低い大宮台地に運ぶ「ドロツケ」について、現場を訪ねて学びます。

9/月祝 連携イベント 文化の森まつり
時間：10：00～15：00

15/日 かわはく研究室～川・自然・歴史～「川の石を割ってみよう！」
時間：13：30～15：30
場所：本館前 定員：随時2名まで
内容：ハンマーを使って、石を割る体験をします。1回5～15分程度です。

18/水 企画展開連イベント「長瀬・皆野 浄化システム見学と水質のお話」
時間：13：30～15：00（予定）
場所：長瀬町周辺
費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎
内容：浄水場の見学と周辺のウォーキングで川の水質について学びます。

21/土 22/日 28/土 29/日 かわはくであそぼう・まなぼう「かわはく de ハロウィン」
時間：10：00～16：00 ※材料がなくなり次第終了のイベントもあります
費用：無料
内容：ハロウィンを楽しむイベントを館内各所で開催します。

21/土 31/火 かわはくハロウィンウィーク
時間：終日
内容：期間中の土日に、仮装して来館していただいた方にはプレゼントがあります。

11月

8/水 荒川ゼミナールⅡ 川を知るウォーキング「荒川河口をみる」
時間：12：20～16：00 集合：JR赤羽駅
費用：100円（保険料） 定員：30名（申込順）☎
内容：荒川河口を巡視船に乗って見学します。
（荒川の堤防の終わりも見ます。）

3/金祝 カスリーン台風から70年節目のイベント
「カスリーン台風の痕跡を訪ねる」（兼荒川ゼミナールⅠ）
時間：9：30～16：00
場所：加須市内
費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎
内容：カスリーン台風による利根川の堤防決壊地点周辺を歩き、地形と水害について考えます（約10km歩きます）。

14/火 スロープ展開連イベント「防災グッズをつくらう」
場所：講座室またはふれあいホール
費用：無料
内容：身近なものを使用した防災グッズを作りながら、家庭での防災対策を考えます（1回30分程度、複数回実施）。

14/火 知っとく！お得！館長と巡る かわはくのんびりツアー
場所：ふれあいホール他
時間：13：00～15：00
費用：500円（お茶代他） 定員：10名（申込順）☎
内容：館長と一緒にかわはく内を巡った後、館長を囲んでお話＆お茶会をします。

14/火 かわはくであそぼう・まなぼう「木の実遊び」
時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00
費用：無料
内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロペエつくりを体験します。

14/火 かわはく秋まつり
時間10：00～16：00

18/土 かわはく体験教室「アゲブネに乗ろう」
時間：①10：00～12：00 ②13：30～15：30
場所：わくわくランド
費用：無料 定員：随時乗船可、1回数名程度
内容：かつて荒川流域に使用されていた洪水避難・救援用の小型船、「アゲブネ」に試乗していただきます。

19/日 かわはく研究室～川・自然・歴史～「クマムシを観察しよう」
場所：荒川情報局
時間：①13：30～②14：10～③14：50～④15：30～
費用：無料 定員：各回2組程度
内容：クマムシを探して観察します。

23/木祝 カスリーン台風から70年節目のイベント
「久下～荒川の瀬替えと堤防決壊地点を歩く」（兼荒川ゼミナールⅠ）
集合：JR熊谷駅（予定）
費用：100円（保険料） 定員：20名（申込順）☎
内容：かわはく開館20周年を記念して、荒川の歴史と関係の強い、久下周辺を歩きます。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国
埼玉県

2017年7月31日発行

